朝日カルチャーセンター
朝日JTB・交流文化塾　通信講座「短歌教室」添削用紙

申し込み教室　1馬場教室　2佐佐木教室　3高野教室　4岡井教室　5「草木」教室　6今野教室　7はじめての短歌

（必ず楷書で。申し込み教室名、男女別、かな遣いの新旧別は○で囲んで下さい）

受講番号

職業　会社員

かな遣い　新・旧

評価　◎　○　△

ふりがな　手をかむしとなりの空を見あぐれば入道雲と

仙頂面　ぶ・っ・ちょ・う・づ・ら（6音＝字足らず）　これで1音です。

〈一首の背景〉　暑い日のお出かけ、隣を歩く人の機嫌をうかがっている。

講師講評欄

楽しそうな歌ですが、やや抽象的で、注釈が無いと場面がわかりにくいようです。「隣を歩く人」の存在は、しっかり出しましょう。まずは場面を具体的に「描写」してみてください。細かいニュアンスは、その後です。〈手をかざし入道雲を見上げては隣を歩く君を窺う〉〈傍らの人の機嫌を窺いて入道雲の空仰ぎたり〉等々。

評価　◎　○　△

ち秒前笑顔とともに連れ去りしメトロの闇をひとり見つめる

〈一首の背景〉　駅のホームで、見送ったあとの寂りょう感。

講師講評欄

場面の着眼はスリリングで良いと思いますが、やはりやや舌足らずです。「見送った後の寂寥感」を具体的な場面描写でどう出すか。映画的にシーンを描いてみてください。〈五秒前の笑顔を電車は連れ去りて一人メトロの闇を見ており〉等々。

評価　◎　○　△

出遅れたフルスロットルの蝉の声我が身にのみぞ降りそそぐ　5音（字足らず）

〈一首の背景〉　晩夏、必死に鳴く蝉に、何かにつけ出足の遅い自分を重ねあわせて。

講師講評欄

「フルスロットルの蝉」という比喩、面白いですね。結句が字足らずです。それを含めて文体を整理しましょう。蝉＝フルスロットル、私＝出遅れ、という構図の方が伝わりやすいでしょう。〈蝉の声フルスロットルに降り注ぎ出足の遅いわれは見上げる〉〈何につけ出足の遅いわが肩にフルスロットルの蝉の声降る〉。

総評

短歌は文字通り短いので、入る情報量が限られています。注釈に頼らずに、過不足なく読者に場面を伝えるためには、歌にする以前に内容をコンパクトにする必要があります。具体的に簡潔に。これが一つ目のポイントです。どの歌も着眼・発想はよいので、短歌は向いていると思いますよ。あとは場数です。

■記入方法は裏面をご覧下さい

■添削結果について

《評価の記号》　良い作品の順に「◎」「○」「△」

《添削記号》　。。。。＝良い表現　＝欠点　「無印」。

※注　返送の際の宛先となる住所、氏名欄が裏面にありますので、必ずご記入願います。